

編集顧問

生田 房弘	石塚 典生
糸山 泰人	岩田 誠
内山真一郎	臺 弘
大友 英一	梶 龍兒
金澤 一郎	高坂 新一
作田 学	島津 浩
杉田 秀夫	高倉 公朋
塚田 裕三	辻 省次
寺本 明	中里 洋一
中込 忠好	中野 今治
彦坂 興秀	平山 恵造
藤澤浩四郎	真柳 佳昭
水澤 英洋	水野 美邦

編集委員

河村 満	(編集主幹)
神田 隆	桑原 聡
酒井 邦嘉	泰羅 雅登
三村 將	森 啓

編集同人

入来 篤史	岩田 淳
宇川 義一	内原 俊記
大隅 典子	岡部 繁男
木村 和美	久保 義弘
栗栖 薫	小林 靖
斉藤 延人	砂田 芳秀
高橋 良輔	瀧山 嘉久
武田 伸一	千葉 厚郎
平田 幸一	寶金 清博
星 英司	星野 幹雄
本田 学	松野 彰

(五十音順)

あとがき

日照時間が短くなると、部屋の照明を使う時間が増える。筆者は昨年引っ越しをしたため、家のすべての照明を一から見直す機会を得た。身近にある照明だが、よく考えてみると盲点がいろいろあることがわかってきた。

欧米の住居やホテルでは、リビングルームの天井に照明がついていないのがむしろ普通で、フロアランプとデスクランプが主たる照明である。それに、たいていは白熱電球が使われる。一方、日本では一般家庭用の白熱電球の生産が既に中止され、オフィスはもちろん家庭でも、蛍光灯の使用率が極めて高い。雰囲気重視して明るさを抑えた飲食店などがある一方、蛍光灯を過剰に使用した大型店舗が目につく。省エネで長寿命のLED電球も普及してきたが、白熱電球に比べると演色性(「電球色」であっても)や配光性に劣ることは、あまり知られていない。また、白熱灯なら部屋の広さから必要なワット数が割り出せるが、LED電球は白熱電球との換算が曖昧で、実際に取り付けてみないとわからない。近年の照明の変化には電力消費を抑えるという切実な事情があるのも確かだが、なぜ海外と日本で照明の使い方にこれほどの差があるのだろうか。

蛍光灯の明るく白い光(実際は緑の輝度が異常に高い)は、日本の高度経済成長の象徴でもあった。かく言う私も、北欧デザインに関心を持つまでは、「リング蛍光灯」が下から剥き出しで見えるような照明器具を実家の和室で使っていた。しかし気づいてみれば、白熱電球は照明の基本であった。自然光に近く、暖かみのある白熱灯の明かりは、くつろげる家にこそ相応しい。

デンマークのポール・ヘニングセン(Poul Henningsen; 1894-1967)が1925年から一貫してデザインし続けたランプ・シェードは、一点からの入射角を一定にする「対数螺旋」の形を採用しており、点光源を配置した時に最も光が広がって、しかもどの角度から見ても眩しい光が直接眼に入ることのないように配慮されている。その優れたデザインを生かすためにも、白熱電球が今なお必要なのである。部屋の用途や雰囲気を考えながら節電型の電球と使い分けて、適度な明るさで快適な空間をつくりたいものである。

さて、今月号の特集は「プロテインパチーの神経病理学」である。神経変性疾患の一部が、蛋白の代謝異常として理解できるようになったとはいえ、剖検が病態解明の基本であることに変わりはないだろう。神経病理の世界を明るく照らす人材が必要とされている。

(酒井邦嘉)

BRAIN and NERVE (第65巻 第12号)

2013年12月1日(毎月1回1日発行)

定価2,835円〔本体2,700円+税5%(送料実費)〕

2013年 年間購読料(税込、送料弊社負担)

冊子版35,670円、冊子+電子版(個人)40,670円/(共有)46,100円、

電子版(個人)35,670円/(共有)41,100円

印刷所 (株)アイワード (011)241-9341

広告申込 (株)ハイブリッジエージェンシー (03)3814-0089

発行 株式会社 医学書院

代表者 金原 優

〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23

電話 編集室直通(03)3817-5701 (小藤・風間・山崎)

販売部直通(03)3817-5659

FAX (03)3815-7802

E-mail bn@igaku-shoin.co.jp

Web <http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/bn>

オンライン投稿 ID: brain パスワード: nerve

- Published by IGAKU-SHOIN Ltd., 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo ©2013, Printed in Japan.
- 本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)医学書院が保有します。
- 本誌を無断で複製する行為(複写、スキャン、デジタルデータ化など)は、「私的使用のための複製」など著作権法上の限られた例外を除き禁じられています。大学、病院、診療所、企業などにおいて、業務上使用する目的(診療、研究活動を含む)で上記の行為を行うことは、その使用範囲が内部的であっても、私的使用には該当せず、違法です。また私的使用に該当する場合であっても、代行業者等の第三者に依頼して上記の行為を行うことは違法となります。
- JCOPY (株)出版者著作権管理機構委託出版物
本誌の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。複写される場合は、その都度事前に(株)出版者著作権管理機構(電話03-3513-6969, FAX 03-3513-6979, info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。